資料１－２

救命救急センターの指定申請について

令和3年12月

南東北グループ　医療法人社団　三成会
新百合ヶ丘総合病院

１　病院の概要

（１）沿革

- 当院は2012年８月１日に377床、総合病院として開院しました。
- 2018年３月には地域医療支援病院の指定を受け、2020年4月には186床の増床により病床数563床の総合病院となりました。

2012年8月	総合病院開設 （377床）	2016年11月	基幹型臨床研修病院
2012年12月	救急告示病院	2018年3月	地域医療支援病院
2013年9月	協力型臨床研修病院	2019年1月	ISO9001：2015認証
2014年3月	神奈川県災害協力病院	2019年5月	神奈川県DMAT-L指定病院
2015年6月	日本医療機能評価機構認定病院	2020年4月	新棟オープン（186床、合計563床）
2016年3月	神奈川県がん診療連携指定病院		

1　病院の概要

（2）設備概要

	既存棟377床 2012年8月1日開設	新棟186床 2020年4月運用開始
入院診療	ICU　10床 急性期病棟　304床 急性期及び小児病棟　34床 産婦人科病棟　29床	急性期病棟　45床 救急専用病棟　20床 緩和ケア病棟　21床 回復期リハビリテーション病棟　100床
救急	新棟に移設	救急センター IVR室・透視内視鏡室 救急・災害対応屋上ヘリポート
手術	手術室　9室 アンギオ室　2室 ロボット手術（ダ・ヴィンチ）	手術室　4室 外来手術室　6室
放射線治療	サイバーナイフ リニアック（IMRT）	
画像診断	MRI3台・CT2台 SPECT・PET-CT2台	MRI・CT
リハビリテーション	外来入院リハビリテーション訓練室	入院リハビリテーション訓練室 ADL機能回復訓練室

1　病院の概要

(3)診療科

診療科(内科・外科)	診療科(その他・センター)
内科	産婦人科
外科	小児科
消化器内科	新生児科
消化器外科	泌尿器科
循環器内科	耳鼻咽喉科
心臓血管外科	皮膚科
呼吸器内科	麻酔科
呼吸器外科	眼科
糖尿病・内分泌代謝内科	放射線診断科
腎臓内科・透析内科	放射線治療科
脳神経内科	歯科口腔外科
脳神経外科	リハビリテーション科
脳血管内治療科	病理診断科
整形外科	救急科
形成外科	精神科
脊椎脊髄末梢神経外科	
ペインクリニック内科	脳神経救急・外傷センター
乳腺・内分泌外科	外傷再建センター
血液内科	脳卒中センター
血管外科	リプロダクションセンター
総合診療科	サイバーナイフセンター
緩和ケア内科	FUS(収束超音波治療)センター
腫瘍内科	

1　病院の概要

(4)職員体制

- 当院は、現在、全体で常勤医師205名（専門医163名）が在籍しています。
- そのうち、救急科専従医7名（6名専門医のうち指導医２名、集中治療専門医２名）、産婦人科医22名、小児科医７名の体制で救急医療を提供しています。

（常勤医師体制）

救急センター	医師数	（専門医）	他診療科	医師数	（専門医）
救急科	7	6	脳神経外科	9	9
脳神経外科 救急外傷部門	3	3	脳神経外科 脊椎脊髄部門	9	9
整形外科 救急外傷部門	10	10	循環器内科 心臓・血管外科	11	9
			産婦人科	22	22
			小児科	7	5
			内科系 外科系	78	58
			他診療科 研修医	49	32
小計	20	19	小計	185	144
			常勤医師 合計	205	163

（医師以外の常勤職員）

所属部署	人数	所属部署	人数
看護部 看護師	560	診療放射線科	46
看護部 看護アシスタント	25	リハビリテーション科	117
薬剤科	39	診療技術部 その他	20
臨床検査科	48	医療福祉課	9
臨床工学科	15	事務部	108
		常勤職員（医師以外） 合計	987
		常勤職員総計	1,192

2021年4月現在

1　病院の概要

(5) 当院の理念

〇すべては患者さんのために

(6) 当院の目標

〇地域医療（救急・産科・小児科）

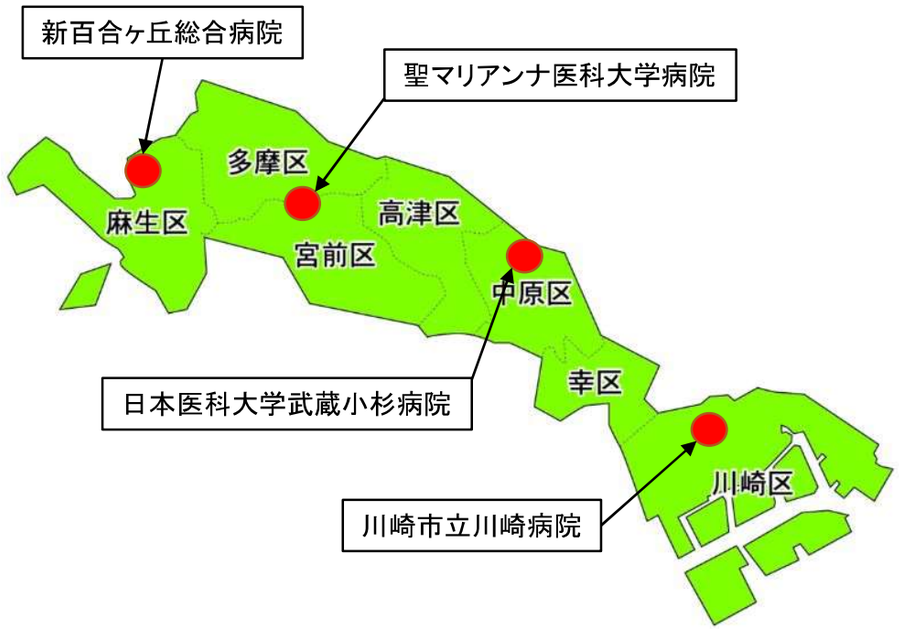
〇高度先端医療

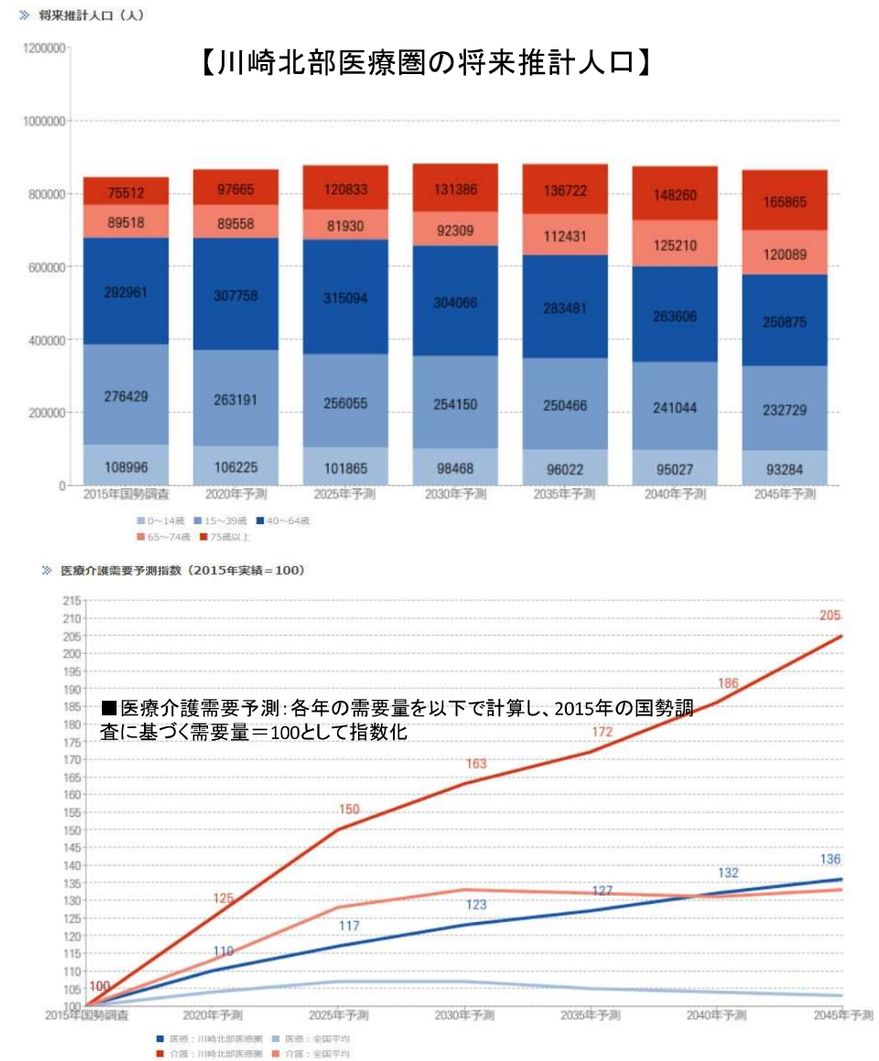
〇最良の安心

「救急・産科・小児科などの地域医療と高度先端医療を通して、
病院としての社会的使命を果たすことにより、
地域住民の方々の日常生活における“最良の安心”につながることが、
病院の目標であります。」

２　当院が提供する医療機能の現状

（1）地域の特性等





資料：国立社会保障・人口問題研究所（2018年3月推計）

〇川崎市総人口：1,539,522人
〇川崎北部保健医療圏総人口：871,034人
（2020年9月1日現在）

２　当院が提供する医療機能の現状

（2-Ⅰ）地域の現状と当院が提供する医療

- 2次輪番応需医療機関数は、川崎南部地域16病院と比較し、川崎北部地域は7病院ということもあり、受入れ困難事例が発生し、北部においては救急自己完結率が低く、救急車現場滞在時間も延長する傾向にありました。
- 救命救急センターは、川崎南部には川崎市立川崎病院と日本医科大学武蔵小杉病院の2ヵ所ありますが、北部には聖マリアンナ医科大学病院1ヵ所となっています。

⇩

- このような地域救急事情に対応するため、開院以来、常勤医師の増員を図りながら随時救急・診療部門を強化し、救急車も積極的に受け入れて、北部地域救急自己完結率の改善と救急車の現場滞在時間短縮に貢献できるよう、また、いざという時に地域医療機関を補完できるよう重症者の対応や多数患者の対応などができる診療体制の構築に努めてきました。

〈現在の夜間・休日救急診療体制〉

救急科、内科系、外科系、循環器系、脳神経系、小児科、産婦人科、その他診療科・研修医

〈事件事故、災害時など緊急時における救急・診療協力〉

- 令和元年5月登戸多発傷害事件では、救急搬送で5名収容
- 令和2年10月小学校理科実験事故では、救急搬送で5名収容
- 令和2年2月以降、新型コロナウイルス感染症DMAT協力、重点医療機関、帰国者・接触者外来、認定発熱外来

２　当院が提供する医療機能の現状

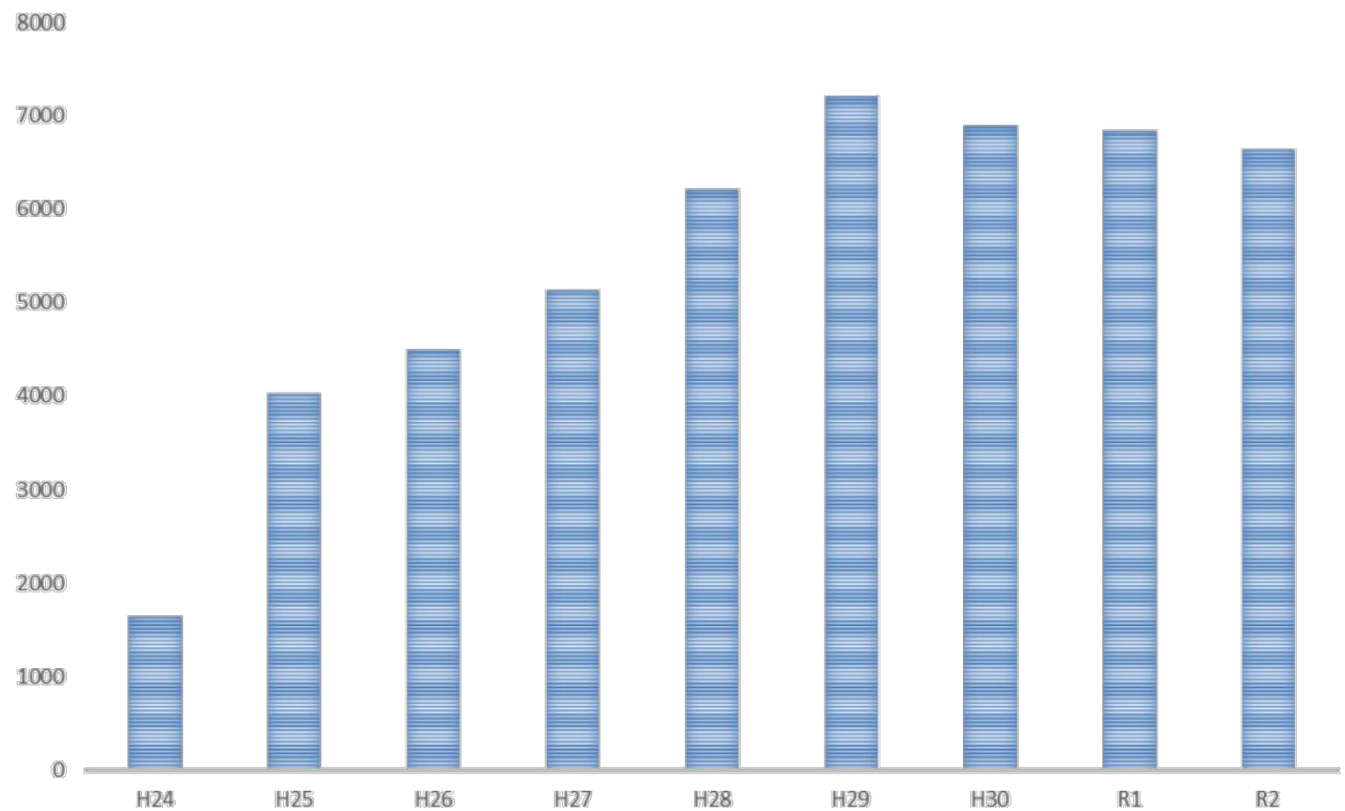
（2-Ⅱ）地域の現状と当院が提供する医療

【新型コロナウイルス感染症対応経緯】

日付	内容
2020/1/29	新型コロナウイルス感染症対応フローを麻生区役所衛生課と確認 （新型インフルエンザ対応訓練振り返り時）
2/7	ダイヤモンドクルーズ船陽性患者搬送協力出動依頼のもと新百合ヶ丘総合病院DMAT-L出動
2/15	新型コロナ感染症擬似症入院対応1例目、またこの時期に「帰国者・接触者外来」開始
3/11,18	「帰国者・接触者外来」で川崎市1例目・2例目のPCR陽性患者対応
3/23-27	川崎市と5月以降開設予定の新棟4階2病棟66床を陽性患者受入れ対応とする方針を検討開始
4/3	新棟において4/1使用開始していた3階回復期リハビリテーション2病棟100床を陽性患者受入れとする変更案、救急病棟20床を擬似症対応とする方針を決定
4/18	重点医療機関として陽性患者1例目の転院受入れ
7/1～	協力病院として救急病棟20床で擬似症入院、陽性患者一時的入院対応、「帰国者・接触者外来」継続
11/24	発熱等診療医療機関指定として「発熱外来」開始
2020/12～2021/9	救急病棟内において陰圧個室を1床から6床まで順次増設し、救急搬送・発熱外来からの陽性患者入院対応開始し、再度、重点医療機関として現在まで入院受入れ対応継続（9月現在34床）
2020/2～2021/9実績	陽性入院患者数：208名　帰国者・接触者外来延べ患者数：1,051名　発熱外来延べ患者数：2,138名

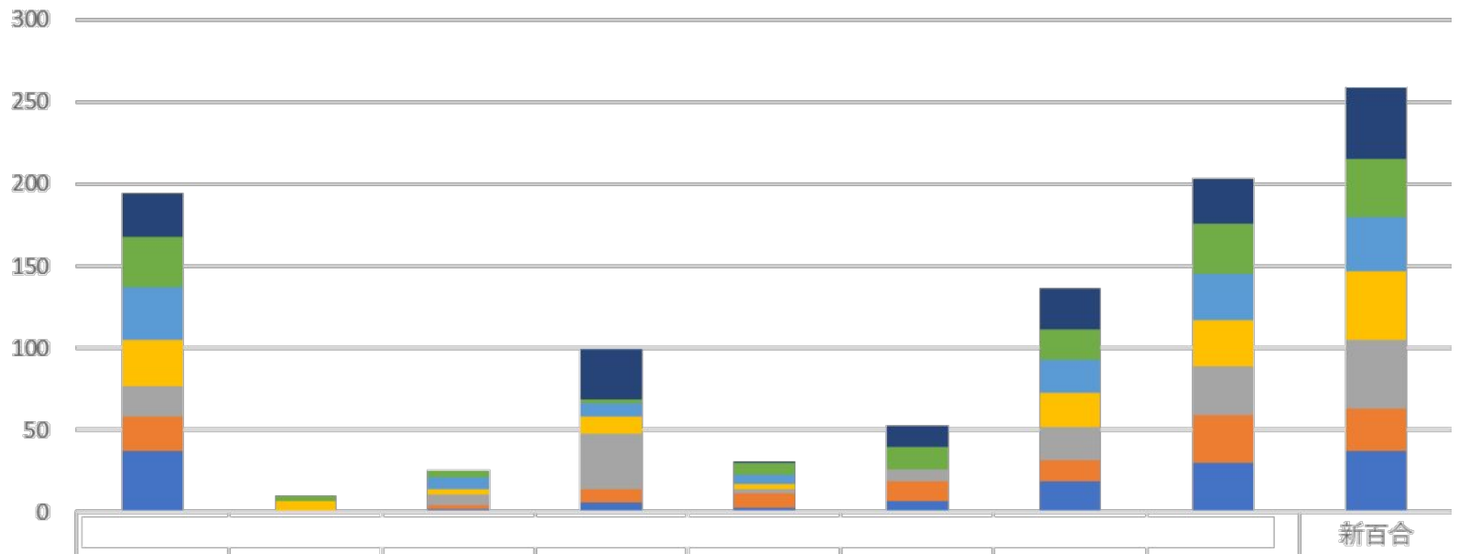
２　当院が提供する医療機能の現状

参考資料）平成２８年以降、年間6,000～7,000台超の救急車を受入れています。
開院以来、過去9年間の受入台数の推移は、次の表のとおりです。



２　当院が提供する医療機能の現状

参考資料）小児救急における救急車受入台数は、次の表のとおりです。



日	26	0	0	30	1	13	25	27	44
土	31	3	4	3	7	14	18	31	35
金	32	0	7	8	6	0	20	28	33
木	28	6	3	10	3	0	21	28	42
水	19	1	7	34	2	7	20	30	42
火	21	0	2	8	9	12	13	29	26
月	37	0	2	6	3	7	19	30	37

小児二次輪番病院からの実績報告（2020年4月～9月報告）

３　今後当院が目指したい医療提供体制-救急医の育成

- 救急医療の現場においては、救急専門医の存在は非常に重要であり、各診療科機能を生かしつつ、２次救急対応をしっかりと提供し、また、専門診療科のみでは困難な重症者対応をするためには、救急医を今後育成していくことで各診療科との連携を高める必要があります。（医師の働き方改革の必要性）

救急医を持続的に確保するためには医療機関として救急医を育てる必要があります。

救急専門医をめざす専攻医を採用するためには、救命の臨床経験を数多く積むことができる救命救急センターとして、診療体制、指導体制をしっかりと確保しなければ、必要十分な救急医を育てるのが難しい現状です。

神奈川県内の専攻医プログラム基幹医療施設、日本救急医学会指導医指定施設はすべて救命救急センターであり、この施設指定を両方とも併せ持っている当院を救命救急センターとして指定して頂き、将来にわたり救急専門医、救急指導医の人材育成を行い、川崎市、さらには神奈川県の救急医療に寄与したい考えです。

３　今後当院が目指したい医療提供体制

参考資料）日本救急医学会指導医指定施設/基幹医療施設一覧（神奈川県）

施設名	指導医 指定施設 （県内13施設）	専攻医プログラム 基幹医療施設 （県内15施設）	救命救急 センター （県内全21施設）
聖マリアンナ医科大学病院	○	○	○
北里大学病院	○	○	○ （災害医療センター）
済生会横浜市東部病院	○	○	○
東海大学医学部付属病院	○	○	○（高度）
横浜市立大学附属市民総合医療センター	○	○	○（高度）
昭和大学藤が丘病院	○		○
湘南鎌倉総合病院		○	○
川崎市立川崎病院　救命救急センター・救急科		○	○
藤沢市民病院	○	○	○
横浜労災病院	○	○	○
平塚市民病院		○	○
横須賀市立うわまち病院		○	○
日本医科大学武蔵小杉病院	○	○	○
横浜市立みなと赤十字病院	○	○	○
国立病院機構　横浜医療センター	○	○	○
海老名総合病院	○		○
新百合ヶ丘総合病院	○	○	未指定

４　救命救急センター指定申請にあたり

- ER型の救命救急センターとして軽症から重症までの幅広い患者を受け入れる環境を整え、消化器領域、外傷領域の医療スタッフの充実により、２次救急で受入困難となりやすい吐下血や開放骨折・四肢切断等高度外傷ならびに小児外傷の応需など、２次を含めた救急受入れの更なる向上を目指します。

- 継続的に救急医の人材育成に取り組むことにより、また4半期に1回開催の地域医療支援病院運営委員会のほか、救急懇談会の開催なども検討し、当院における救急実績の情報公開や救急診療における意見交換を行うことにより、地域医療機関と緊密に連携した救急医療の安定的運営に貢献します。新たな診療体制構築により、救急搬送受入れ件数7,000件超（直近6,650件）、年間来院時重篤患者数1,000件超（直近853件）の対応を想定しています。

- 同一二次保健医療圏内に複数の救命救急センターが配置されることで、また将来的に感染症パンデミック時などにおける重症者対応可能な診療体制を目指すことにより、聖マリアンナ医科大学病院の補完的な役割も担うことができ、有事の際の危機管理において県民市民が安心して暮らせる医療提供体制が確保されます。